

営農だより

金沢営農協議会
J A 金沢市
石川県農業共済組合

7月のポイント ～高品質金沢産米づくり運動10の推進技術～

- 畦畔・農道等は、7月上旬までに追加除草
- 高温登熟、生育に対応した施肥体系
- 中干し後～出穂までの約1か月の飽水管理
- 出穂～刈取直前までの1か月以上の飽水管理(コシヒカリ)

出穂予想日 **コシヒカリ…7月28日頃** (圃場の1/2以上が出穂した時)
(6月18日現在) 地域や圃場、天候によって出穂日は前後します。

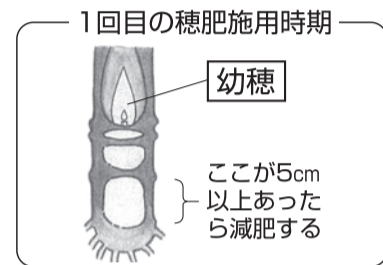
乳白粒防止のためのコシヒカリの穂肥施用

ポイント

1. 1回目の穂肥は出穂16日前に適量施用する。

1回目の穂肥
施用時期の確認

幼穂長：15～20ミリ
葉色：3.5 (葉色板)



2. 施用時期は必ず幼穂の伸長と葉色、稲型を確認して施用する。
3. 2回目の穂肥は遅くとも出穂の7日前までに施用する。

稲型診断パターン

A型…葉色が薄い(葉色3.5)
(標準) 葉が立ち、下葉の乱れがない



写真：A型の例

基準通り施用
(茎数が多い場合は1回目の施用量を3kg程度減らす)

B型…葉色がやや濃い(葉色4.0)
株が出来過ぎ、らちが見えない
下葉の乱れがみられる

1回目の施用時期を3日程度遅らせ、
施用量を基準量の2～3割程度減らす
2回目は、基準量を施用する

C型…葉色が濃い(葉色4.5)
葉の乱れが目立つ

1回目の穂肥を施用しない
2回目は、草丈・葉色を見て施用量を判断する

(B型、C型の稲型ではすでに下位節間が伸びてきています。倒伏に要注意!!)

穂肥施用時期の目安と施用量

(10a当たり)

区分 品種	肥料名	1回目			2回目		
		施用時期	地力別	施用量	施用時期	地力別	施用量
ゆめみづほ	BB有機入追肥526号 (N:15-P:2-K:6)	6月24日頃	乾田 湿田	20kg 15kg	7月7日頃	乾田 湿田	25kg 25kg
	BB有機入よしみ (東部・医王ライスセンター必須)	6月24日頃	乾田 湿田	25kg 25kg	7月7日頃	乾田 湿田	25～30kg 25kg
	BB有機入いしかわ穂肥一発055 (穂肥一発肥料)	6月24日頃	乾田 湿田	32～36kg 32kg	—	—	—
区分 品種	肥料名	1回目			2回目		
コシヒカリ	BB有機入追肥526号 (N:15-P:2.4-K:6)	7月12日頃	乾田 湿田	15kg 13kg	7月20日頃	乾田 湿田	20kg 17kg
	BB有機入よしみ (東部・医王ライスセンター必須)	7月12日頃	乾田 湿田	18kg 15kg	7月20日頃	乾田 湿田	20kg 20kg
	BB有機入いしかわ穂肥一発055 (穂肥一発肥料)	7月12日頃	乾田 湿田	23kg 18kg	—	—	—

◎市街地では上記の2～3日前を目安とし、山間地では2～3日後を施用の目安にする。

◎1回目の穂肥を減量した場合でも2回目は必ず基準量を施用する。

今後の水管理

中干し後～刈り取り5日前までの間は、**飽水管理** とする。

- 平坦地域の飽水管理の目安
ゆめみづほ 8月15日頃まで
コシヒカリ 8月30日頃まで

飽水管理とは…**こまめに通水して、常に土壤水分を保つような水管理をすること**

※営農テレホンサービス実施中 (電話237-1117)

J A金沢市のホームページにも営農だよりを掲載しております。「J A金沢市」で検索して下さい。

中干し後から出穂までは、約1か月間(コシヒカリ)の飽水管理!!

病害虫防除 斑点米を発生させるカメムシ類が多くので点で確認されています。

基幹防除 (出穂予想：ゆめみづほ7月17日頃、コシヒカリ7月28日頃)

※6月18日の生育調査の結果、前回から分けつがかなり進んだため、ゆめみづほの出穂予想は17日頃と早まりました。

◆粉剤散布の場合 カメムシ類に効果的な防除は、出穂7～10日後頃と、更にその7日後頃の散布です。

	防除時期		薬剤名・適用病害虫	散布量・収穫前使用日数
	ゆめみづほ	コシヒカリ		
1回目	7月10～14日 (出穂前7～3日)	7月21～25日 (出穂前7～3日)	ビームレモンセレン粉剤 DL いもち病、紋枯病、カメムシ類、 ツマグロヨコバイ、ウンカ類、コブノメイガ	4kg/10a 収穫21日前まで
2回目	7月24～27日 (出穂後7～10日)	8月4～7日 (出穂後7～10日)	ラブサイドキラップ粉剤 DL いもち病、カメムシ類、ウンカ類	4kg/10a 収穫14日前まで
3回目	7月31日～8月3日 (出穂後14～17日)	8月11～14日 (出穂後14～17日)	スタークル粉剤 DL カメムシ類、ツマグロヨコバイ、 ウンカ類、イナゴ類	3kg/10a 収穫7日前まで

※市街地の防除時期は上記の2～3日前、山間地では2～3日後が目安です。

※早生3回、中生2回+随時1回。生育の早い中生は3回防除が必要です。

※粉剤散布後3時間程度降雨がなければ、効果があります。

※防除は稲の株もとにもいきわたるように散布して下さい。

◆微粒剤散布の場合 (市街地など粉剤散布ができない圃場)

微粒剤専用ホースまたは、粒剤専用ホースが必要です。

	防除時期		薬剤名・適用病害虫	散布量・収穫前使用日数
	ゆめみづほ	コシヒカリ		
1回目	7月10～14日 (出穂前7～3日)	7月21～25日 (出穂前7～3日)	サジェスト微粒剤F いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	3kg/10a 収穫21日前まで
2回目	7月24～27日 (出穂後7～10日)	8月4～7日 (出穂後7～10日)	ビームスタークル微粒剤F いもち病、カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	3kg/10a 収穫7日前まで
3回目	7月31日～8月3日 (出穂後14～17日)	8月11～14日 (出穂後14～17日)	キラップ微粒剤F カメムシ類、ウンカ類、イネドロオイムシ、 イナゴ類	3kg/10a 収穫14日前まで

◆粒剤散布の場合 (市街地など粉剤散布ができない圃場)

	防除時期		薬剤名・適用病害虫	散布量・収穫前使用日数
	ゆめみづほ	コシヒカリ		
1回目	7月3～7日 (出穂前14～10日)	7月14～18日 (出穂前14～10日)	イモチエースキラップ粒剤 いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類 *使用回数は1回です。	3kg/10a 収穫35日前まで (散布後35日以内の収穫不可)
2回目	7月24～27日 (出穂後7～10日)	8月4～7日 (出穂後7～10日)	スタークル粒剤または スタークル豆つぶ カメムシ類、ツマグロヨコバイ、ウンカ類	粒剤：3kg/10a 豆つぶ：250g/10a 収穫7日前まで

※粒剤は、湛水状態で散布し、3～4日間は湛水状態を保つ。

※スタークル粒剤での防除は、「穂が出揃った時～穂が傾き始めた頃」が最適です。

随時防除

稲こうじ病・紋枯病が前年発生した圃場では、予防のため防除を徹底して下さい。

いもち病・コブノメイガの発生を確認した圃場では、ただちに以下の薬剤を散布して下さい。

対象病害虫	薬剤名	散布量	防除時期 (収穫前使用日数)
稲こうじ病	Zボルドー粉剤DL	4kg/10a	出穂前20～10日 (出穂10日前まで)
稲こうじ病・紋枯病	モンガリット1キロ粒剤	1kg/10a	出穂前21～14日 (収穫45日前まで)
いもち病	ブラシン粉剤DL	4kg/10a	発生時 (収穫7日前まで)
紋枯病	リンバー粒剤	3kg/10a	出穂前14～11日 (収穫30日前まで)
コブノメイガ	Mr.ジョーカー粉剤DL	4kg/10a	多発時 (収穫7日前まで)

※農薬は使用時期・量を厳守し、正しく使用しましょう。

※7月上旬まで畦畔や農道の除草を徹底しましょう！刈取った雑草は用排水路に入らないよう注意！